



大阪府中央会情報連絡員報告

## 府内中小企業の景況

2022年  
9月

1. 9月のDIは、全9指標のうち8指標が上昇、主要3指標は、売上高36ポイント上昇、収益状況20ポイント上昇、業界の景況は54ポイント低下している。
2. 9月末時点では、製造業では6指標のDIが上昇し、また非製造業では5指標のDIが上昇している。

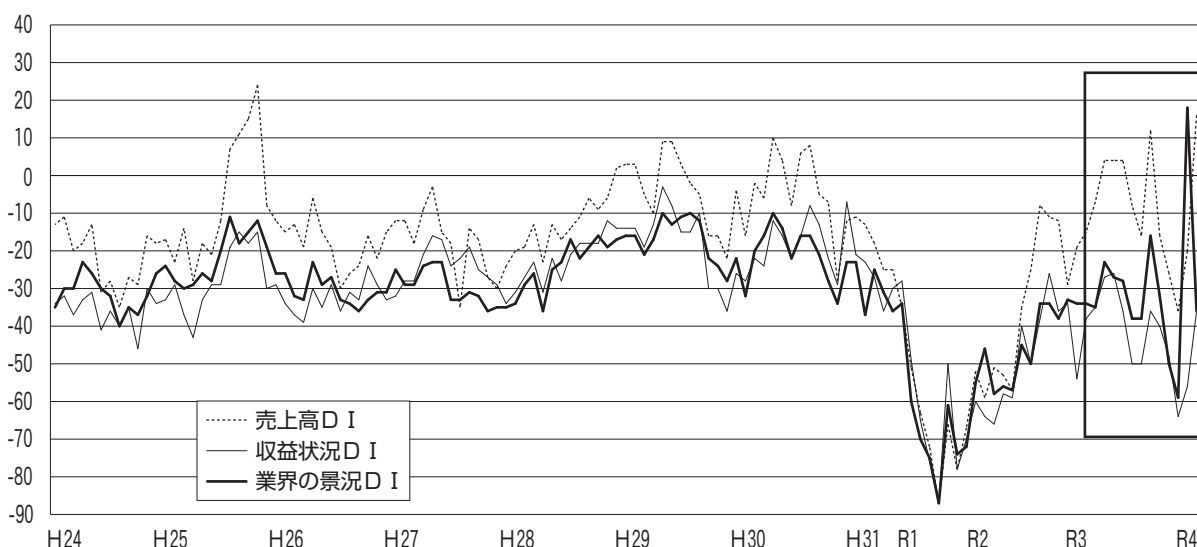
## 景況天気図

令和4年 9月分	全産業			製造業			非製造業			30以上 快晴
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	
売上高	△20 	16 	↗ 36	△13 	27 	↗ 40	△30 	0 	↗ 30	10~29 晴れ
在庫数量	5 	0 	↗ -5	0 	0 	→ 0	33 	0 	↗ -33	9~△9 うす曇り
販売価格	12 	24 	↗ 12	13 	27 	↗ 14	10 	20 	↗ 10	△10~△29 くもり
取引条件	△24 	△12 	↗ 12	△33 	△13 	↗ 20	△10 	△10 	→ 0	△30~△49 雨
収益状況	△56 	△36 	↗ 20	0 	△46 	↘ -46	△40 	△20 	↗ 20	△50以上 大雨
資金繰り	△18 	△12 	↗ 6	△26 	△20 	↗ 6	0 	0 	→ 0	
設備操業度	△40 	△20 	↗ 20	△40 	△20 	↗ 20				
雇用人員	△30 	△8 	↗ 22	0 	△7 	↘ -7	△30 	△10 	↗ 20	
業界の景況	18 	△36 	↘ -54	△60 	△40 	↗ 20	△30 	△30 	→ 0	

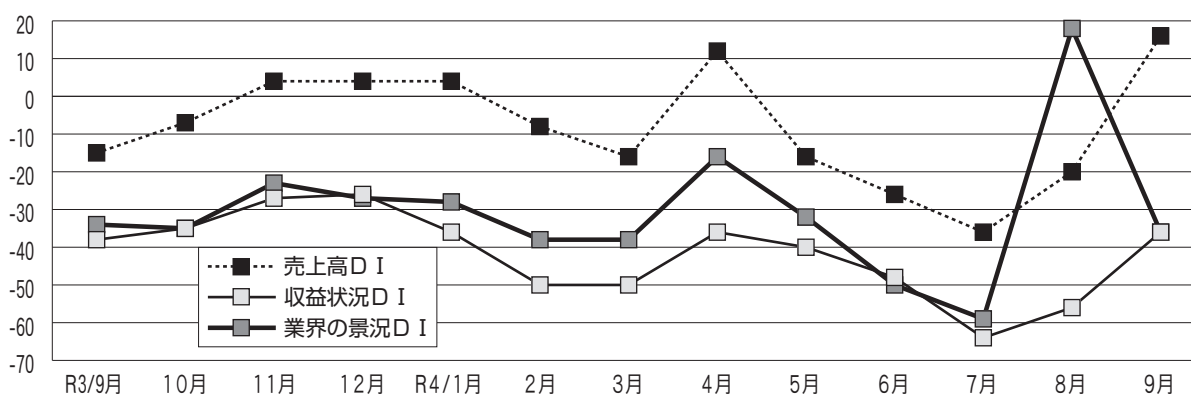
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H24年9月～R4年9月のD Iの推移



全産業 R3年9月～R4年9月のD Iの推移



業種別概況 (9月分)

【製造業】



水産食料品製造業

梱包資材や燃料、電気等の高騰により、原料となる水産物の高騰と入荷量の減少もあり業界の景況としては依然厳しい状況である。



古紙収集加工業

9月も新聞古紙の発生は非常に悪く、コロナ禍の影響で一定の経済活動が停滞しているなか、収益状況、業界全体としての景況は悪化している。



製本業



製本業

前年同月と比べて売上高は増加しており、またDIYやリノベーション等木材の需要は増加傾向にあるが、業界としては依然厳しい状況である。

組合員企業は長引く原油価格の高騰に伴う運送費などを、製品単価に転嫁できず、また機材関連業は値上げを要望され苦慮しており、取引条件は悪化している。

**シール印刷業**

9月はコロナが終息に向かいつつあるなかで、食品を中心に需要が回復しつつある。また、衣料品を中心に冬の需要を見越した受注も増加傾向にある。しかし、全体的には資材価格の高騰に伴い価格転嫁が進まず、小規模事業者には厳しい状況である。

**セルロイドプラスチック製品製造業**

前月比25%増、前年比8%減、前月が非常に低調であっただけに当月は僅かながら上昇しているが、原材料コスト上昇分の価格転嫁は一向に進まず、業界の景況としては極めて悪い状況が続いている。

**石鹼洗剤製造業**

コロナ禍の反動減に苦しんだ石鹼は、浴用固形、手洗用液体が洗顔・ボディ用身体洗浄剤を含めて前年を大きく上回り好調となった。合成洗剤では台所用、住宅・家具用が前年を上回り好調を推移しているが、洗濯用は苦戦が続いている。業界全体としての景況は安定している。

**鍛造業**

生産量、売上高とも若干好転が見られるが、前年同月が特に悪かったため生産量は約10%増となった。主要の自動車用が前年比割れを起こすものの、ダウン率が20%から5%程度良くなったのが増加した原因である。燃料費、材料費の高騰が大きく影響する業種であるため、収益状況が懸念されるが、業界の景況は安定している。

**建築金物製造業**

燃料価格の高騰、原材料費や物流コストの上昇等により、業界の経営環境は依然として厳しい状況にある。

**産業機器製造業**

原材料及び副資材、運賃等の値上げを客先に対して反映させることが難しく収益を圧迫しており、業界の景況は悪化している。

**印刷製本機械製造業**

この数か月、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著になっている。また、景気的世界的減速感から輸出を含め新規注文が激減し、業界の景況感は極めて悪い。

**【非製造業】****電気機器卸売業**

業界全体として前年同月比では増収・増益を確保しているが、一部部材の供給不足が価格高騰に拍車をかける一因となるなど、先行き不透明な状況である。

**衣服・身の回品卸売業**

円安進行により仕入れ価格の高騰が続き採算は悪化基調にある。また、秋・冬物の需要見通しは依然不透明であり、収益状況、景況とも悪化している。

**二輪自動車小売業**

販売だけでなく整備においても組合員の二極化が進んでおり、業界としての景況は悪化している。

**地質調査業**

大阪府の地盤調査関連発注量は、2022年度9月末で3億円と前年度に比べて半分に留まっているが、業界の景況としては安定している。

**警備業**

ウイズコロナの考え方が浸透し、イベント等の雑踏警備や高速道路工事の交通警備業の受注が増えてきた。売上高、取引条件、収益状況は昨年同月より増加し、業界の景況は好転している。

**建設業**

売上金額の前年比は9月が60%、4～9月まで33%とかなり厳しく工事関係の受注もほとんどない状況で業界の景況は悪化している。

**タイル工事業**

コロナ禍の影響を受けた昨年より、売上は少し増加傾向であるが、材料メーカーの値上げが相次ぎ収益状況は悪化している。

**貨物運送業**

前年同月と比べ売上は同等、販売価格はやや上昇したが、引越機材および燃料価格の高騰が続いており、業界の景況は悪化している。